

# 一般社団法人日本地質学会2011年度総会記事

## 2011年度総会議事録

以下のとおり、定時社員総会を開催した。

日時 2011年5月21日(土) 14:00~15:40  
会場 総評会館 201会議室(東京都千代田区神田駿河台3-2-11)

総会開始にあたり、議長・副議長、書記として、本日出席代議員の中から以下の方々を選出した。

議長：中澤 努；副議長：芦 寿一郎；  
書記：杉田律子・宮下 敦

代議員(=社員)総数 125名

議決権総数 125個

出席者数(委任状、議決権行使者含む)  
84名 この議決権総数 84個

出席役員 理事(31名) 久田健一郎副会長  
渡部芳夫副会長 天野一男 安藤寿男  
石渡 明 伊藤谷生 永広昌之 小山内  
康人 狩野彰宏 北原哲郎 紺谷吉弘  
斎藤 眞 榊原正幸 坂口有人 佐々木  
和彦 柴 正博 高木秀雄 高橋正樹  
竹内 誠 田村嘉之 内藤一樹 中井  
均 平田大二 福富幹男 藤林紀枝 藤  
本光一郎 星 博幸 保柳康一 向山  
栄 山口耕生 脇田浩二

監事(2名) 青野道夫 山本正司

総会定足数63名をこえる出席者があるので成立している旨宣言し、議事に入った。

### 1号議案 2010年度理事会報告

藤本常務理事から2010年度の理事会報告があった。特に質疑はなく、拍手により採決を行い、賛成多数で本議案を承認した。

### 2号議案 2010年度事業・決算報告

会計担当の向山執行理事から報告と説明があった。また、青野監事より、2010年度の会計については、適切に処理されていることを確認した旨の会計監査報告があった。法人税の対象となる事業についての質疑応答の後、拍手により採決を行い、賛成多数で本議案を承認した。(P.8-12参照)

### 3号議案 2011年度事業計画

2011年度の事業計画について藤本常務理事から説明があった。各事業に対する具体的方策および会員への周知方法、並びに大震災により被災した博物館の資料の破損及び散逸に対する予算を含めた学会としての早急な対策について質疑応答の後、拍手により採決を行い、賛成多数で本事業計画案は承認された。

(P.14参照)

### 4号議案 2011年度予算案

会計担当の向山執行理事から、2011年度の前予算案について詳細な説明がなされた後、議場出席代議員の挙手及び議決権行使書内訳により採決を行った。

議場 賛成29、反対0、保留1、議長1、副議長1、書記2 計34

議決権行使書 賛成25、反対1、保留0 計26

よって予算案は賛成多数で承認された。(P.13参照)

### 5号議案 名誉会員の選出

名誉会員推薦委員会久田委員長より、名誉会員候補者としては5名の推薦があり、全員を候補者として理事会に提案し承認されたこと、および各候補者の推薦理由などの説明がなされた。その後、小島郁生会員・倉沢一会員・松島信幸会員・猪郷久義会員・粉倉克幹会員の5会員を名誉会員とすることについて、拍手により採決を行い、賛成多数で承認した。(P.14-16参照)

以上をもって、予定されていた議題についての審議は終了したが、渡部副会長より欠席した宮下会長からの総会にあてたメッセージが紹介された。

水戸大会について、行事担当星理事より説明が行われ、また、天野大会実行委員長から、東日本大震災後の行事として、シンポジウムの一部計画を全面的に見直したことなどの報告があった。また、地学教育について、中井理事より近年の高校地学教員の採用状況に関する報告があった。

2011年5月21日

## 2010年度事業経過報告

### 1. 報告事項

#### 1) 会員の動静

2011年4月末現在の会員は、賛助会員26社、名誉会員68名、正会員3954名(うち院生割引109名、学部割引2名)、会員総数4048名、2010年4月末と比べて79名の減少であり、その内訳は次のとおりである。

入会者 155(賛助0社、正会員155名〔うち院生割引103名、学部割引22名〕)

退会者 116(賛助2社、正会員114名〔うち院生割引7名、学部割引0名〕)

除籍者 103(正会員 103名)

逝去者 15(名誉会員7名、正会員8名)  
名誉会員：深田淳夫(2010/12/10)、大森昌衛(2011/1/3)、松本隼夫(3/30)、

須鎗和巳(4/2)、柴田松太郎(4/3)、小高民夫(4/12)、中世古幸次郎(4/21)

正会員：北川隆司(2009/8/9)、津田貞太郎(2010/8/1)、田辺克幸(9/7)、吉野言生(11/25)、鈴木宇耕(2011/1/12)、濱田隆士(1/19)、横山良哲(2/1)、玉木賢策(4/6)

### 2) 学会運営に関する諸集會及び委員会等の活動

<任意団体：第117年総会>

日時：2010年5月23日 18:00~18:45  
会場：幕張メッセ 国際会議場304会議室  
議決権総数 201、定足数 101、出席者数 137名(委任状提出者 44名、議決権行使 22名含む)。

審議事項：1) 2009年度事業経過報告、2) 2009年度決算報告と資産の処分、3) 任意団体の解散

<法人：2010年度定時総会>

日時：2010年5月23日 18:45~19:45  
会場：幕張メッセ 国際会議場304会議室  
2009年度役員・代議員による審議…1号議案~3号議案

議決権のある当法人社員総数 143名(定足数：72名)

総社員の議決権の数 143個 出席社員数(委任状および議決権行使書提出者を含む) 107名、

議決権の総数 107個、出席理事 30名、出席監事 1名

2010年度役員・代議員による審議…4号議案~7号議案

議決権のある当法人社員総数 125名(定足数：63名)

総社員の議決権の数 125個 出席社員数(委任状および議決権行使書提出者を含む) 104名、

議決権の総数 104個、出席理事 39名、出席監事 1名

審議事項：1) 2009年度理事会報告、2) 2009年度事業・決算報告、3) 代議員および理事、監事選挙報告、4) 代表理事(会長)・監事・執行理事の選出、5) 2010年度事業計画、6) 2010年度予算、7) 名誉会員の選出

いずれの議案も賛成多数で承認。

<委員会等の開催>

・執行理事会(12回) 議事内容、報告等については、随時HP、ニュース誌に掲載

・理事会(4回) 議事内容、報告等については、随時HP、ニュース誌に掲載

・その他委員会(メールによる会議を含め、随時開催)：法人の委員会として任務や体制について再構成。[→2. 執行理事会および理事会議決・承認事項「4」執

行理事会および委員会の構成」参照.]

### 3) 行事の開催

#### 1. 第117年年会

会 期：2010年9月18日～20日

会 場：富山大学

参加者：777名(会員702名, 非会員75名)

・一般発表：470件(申込み477件)：口頭255件(申込み260件), ポスター215件(申込み217件)

・シンポジウム：8件(72講演[申込み74講演])

・優秀ポスター賞の授与：8件(ポスター発表のみ)

・見学旅行：実施8コース(9コースを計画)

・ランチョン：専門部会を中心に10件

・夜間小集会：12件

・就職支援プログラム：2010年9月18日参加企業・団体：6社・1団体

<日本地質学会各賞の授与式・記念講演会>

日時：9月18日(土), 会場：富山大学五福キャンパス黒田講堂ホール

・来賓挨拶 Prof. Ochir Gerel (モンゴル地質学会国際関係・高等教育担当理事, IUGS副会長), 西頭徳三氏(富山大学学長)

・日本地質学会小澤儀明賞受賞記念スピーチ「巨礫を測り続けて5000個～見えてきた琉球列島の津波履歴～」(後藤和久会員)

・日本地質学会国際賞受賞記念講演「Subduction-Zone Metamorphism: From Zeolite- through Blueschist- and Eclogite-Facies to Ultrahigh-Pressure Recrystallization」(劉忠光氏, [Dr. Juhn G. Liou])

<年会関連行事>

・地質情報展2010とやま-海・山ありて富める大地- 2010年9月17日～19日参加者：856名

・市民講演会「北陸の大地をゆるがす地震と恐竜」2010年9月18日, 参加者：約130名,

講師：東 洋一会員, 寒川 旭会員

・特別講演会「堀越 叡追悼特別講演会-地殻進化と同成鉱床研究の総括と最前線」2010年9月19日, 主催：第117年学術大会実行委員会, 共催：資源地質学会, 参加者：約100名

・地学教育委員会

小さなEarth Scientist のつどい～第8回小・中・高校生徒地学研究発表会：2010年9月19日, 参加校9校, 11件, うち3件に優秀賞を授与。また, 第8回発表会から奨励賞の表彰も行うこととし, 2件の発表に対し奨励賞を授与。

第9回理科教員対象見学旅行：2010年9月20日, 「糸魚川ジオパーク ヒスイ探訪ジオツアー」

案内者：宮島 宏会員

#### 2. 地質の日 本部イベント

・「地球史46億年を撮る」(講師：白尾元理会員), 5月8日, 東京大学小柴ホール

#### 4) 出版物の刊行

<地質学雑誌>

・116巻4号(2010年4月)～117巻3号(2011年3月)を刊行した。総ページ数は708ページ。

・地質学雑誌補遺：富山大会見学旅行案内書 冊子版およびCD-ROM版

<日本地質学会ニュース>

・13巻4号(2010年4月)～14巻3号(2011年3月)を発行した。総ページ数は392ページ。

<Island Arc>

・Island Arc 編集委員会の編集により, Wiley-Blackwell社よりVol.19, Issue 2～Issue 4, Vol.20, Issue 1を刊行した。総ページ数は674ページ。

<リーフレット>

・たんけんシリーズ3「城ヶ島たんけんマップ」9月1日発行

・リーフレット4「日本列島の地質環境の長期安定性」2011年1月15日発行。

<その他>

・日本地方地質誌8巻「九州・沖縄地方」(朝倉書店)7月20日に刊行。

・日本地方地質誌1巻「北海道地方」(朝倉書店)11月25日に刊行。

・地形の大研究(PHP研究所, 日本地質学会監修)9月29日に刊行。

#### 5) 関連外部委員会への協力

下記の関連外部委員会等に対して本学会から選出された委員を通じて, これまでに引き続きそれぞれの活動, 関連学会の発展と連携に協力した。

日本地球惑星科学連合：評議員(宮下純夫), 連絡委員(向山 栄), プログラム委員(七山太), キャリアパス支援小委員会委員(佐々木和彦), 環境・災害対応委員会-災害の委員(横山俊治), 環境・災害対応委員会-環境の委員(小荒井衛), 学術出版委員会委員(井龍康文), 教育問題検討委員会(矢島道子, 芝川明義, 中井睦美, 渡邊正人), 国際委員会(副委員長 公文富士夫), 地質科学関連学協会連合(天野一男), 自然史学会連合(斎木健一), 地理関連学会連合(藤本光一郎), 土質・地質技術者生涯学習協議会(CPD, 公文富士夫), 日本技術者教育認定機構(JABEE, 天野一男), 地質の日事業推進委員会(委員, 藤林紀枝), 原子力総合シンポジウム(運営委員, 高橋正樹), アイソトープ・放射線研究発表会運営委員会(運営委員, 山口耕生), 技術者の認定制度創設のための委員会委員(山本高司), 富士学会：富士山科学看板設置調整委員会(専門委

員, 高橋正樹), 日本ジオパーク委員会(委員 高木秀雄), 国際地質オリンピック日本大会組織委員会(委員, 宮下純夫), 産総研地質調査総合センターJIS委員会(学会委員, 斎藤靖二), 第5回ジオパーク国際ユネスコ会議組織委員会(顧問 宮下純夫), (NPO)地質オリンピック日本委員会広報小委員会(坂口有人), 大学評価・学位授与機構の専門委員など。

6) その他報告事項(主なもの, そのほかはNews誌, HPに掲載の執行理事会議事録, 理事会議事録参照)

<特に他学協会との共催・後援, 協賛行事, 開催年月日に関りなくこの期間に依頼のあったもの>

・日本ジオパーク糸魚川大会(2010年8月22～23日)の後援。

・International Commission on the History of Geological Sciences (IUGS)の傘下, 国際地質学史委員会INHIGEO)2011年日本開催(2011年8月2～10日, 日本開催準備委員会委員長：鈴木尉元会員)の共催。

・第四紀学会シンポジウム「学校教育で地学は生き残れるか?」(2010年6月19日)の講師派遣。コメンテーター：藤林紀枝理事。

・「地震火山こどもサマースクール」室戸大会2010(地震学会・火山学会共催, 8月7～8日)の後援。

・神奈川県立生命の星・地球博物館「日本列島20億年 その生い立ちを語る」(2010年7月17日～11月7日)の後援。

・国際地質オリンピック日本大会(2012)への協賛。

・筑波大学学校教育局 朝永振一郎記念第5回「科学の芽」賞の後援。

・第5回国際海底地すべりシンポジウム(ISSMMTC)(2010年10月24～26日)の共催。

・産総研地質調査総合センター主催「20万分の1地質図幅全国完備記念シンポジウム」(2010年11月16日, 東京)における講演依頼。講演：宮下純夫会長。

・秋田大学鉱業博物館から企画展示「北投石の真実」に地質学雑誌のアーカイブ(14巻, 16巻, 20巻)の貸出。

・「韓日地質学会室戸合同大会」について, 室戸市および室戸ジオパーク推進協議会からの後援を受けた。

・朝日新聞社主催「第八回ジャパン・サイエンス&エンジニアリング・チャレンジ(JSEC2010)～高校生“科学技術”チャレンジ～」の後援。

・埼玉県地質研究委員会「秩父盆地周辺の地域での見学会(2010年7月28～29日)」の後援。

・日本地球化学会の2010年度年会(2010年9月7～9日)の共催。

・「Techno-Ocean2010」(2010年10月14～

16日)の協賛。

- ・土壌環境センター・日刊工業新聞主催「2010土壌・地下水環境展」の協賛。
- ・深田地質研究所「第129回・第130回深田研談話会」土讃線ジオツアー(2010年11月5日・11月6日)の後援。
- ・計測自動制御学会主催「第36回リモートセンシングシンポジウム」(2010年11月4～5日)の協賛。
- ・21世紀の地学教育を考えるフォーラム実行委員会主催「第11回子供のためのジオ・カーニバル」(2010年11月6～7日)の後援。
- ・日本アイソトープ協会「第48回アイソトープ・放射線研究発表会」(2011年7月6～8日)の共催。
- ・「更新統前期-中期境界国際シンポジウム」(2011年1月15～16日)に対し環境地質部会、第四紀地質部会が共催。
- ・地質汚染-医療地質-社会地質学会「第20回環境地質学シンポジウム」(2010年12月3～4日)に対し、環境地質部会が共催。
- ・第5回ジオパーク国際ユネスコ会議(2012年5月12～15日、島原市)の後援。
- ・地学教育学会、地学教育フォーラム「地球を知れば知るほど、毎日が楽しくなる」(2011年4月23日)の後援。
- ・学生ヒマラヤ野外実習プロジェクト(世話人代表吉田勝・在田一則・酒井哲弥)プログラムを推薦。
- ・第5回ジオパーク国際ユネスコ会議組織委員会の顧問就任の依頼が会長にあり、承諾。
- ・原子力総合シンポジウム2011を共催依頼。

## 7) 支部の活動

### <北海道支部>

1. 「地質の日」記念展示(2010年4月27日～5月30日)  
北海道大学総合博物館企画展示「一歩いた!探した!見つけた!-わが街の文化遺産・札幌軟石」。日本地質学会北海道支部・札幌建築鑑賞会・札幌軟石文化を語る会・北海道立総合研究機構地質研究所・北海道大学総合博物館の共催
2. 野外巡検および講演会「夕張市白金川流域の地質-砂金・化石の産状と白亜紀海洋無酸素事変層準の観察-」(2010年9月4日～9月5日)
  - ・講演会(9月4日15:00～17:00)於北海道大学:「白亜紀の古環境」(高嶋礼詩),「砂白金からみた北海道」(中川充),参加者30名
  - ・野外巡検(9月5日8:30～18:00):夕張市白金川(案内:高嶋礼詩,中川充),参加者18名
3. 北海道支部総会・個人講演会(2011年2月26日)於北海道大学
  - ・総会(13:30～14:50)北海道支部

規則および同運営細則を改訂した。参加者22名

- ・個人講演会(15:00～16:45)発表7件,参加者38名
- 4. 日本地方地質誌1「北海道地方」出版記念講演会・祝賀会(2011年2月26日)於北海道大学
  - ・講演会(17:00～17:50):「北海道の地質-その魅力を伝えたい-」(新井田清信),参加者40名
  - ・祝賀会(18:00～20:00),参加者37名
- 5. 2011年度「地質の日」記念展示(2011年3月8日～5月29日)
  - ・北海道大学総合博物館企画展示「豊平川と私たち-その生いたちと自然-」。北海道大学総合博物館主催,北海道立総合研究機構地質研究所,札幌市博物館活動センター,日本地質学会北海道支部共催。
- 6. 北海道地質百選検討
  - ・公開済みジオサイト数は266ヶ所(1/31現在)に達し,地域ごとにジオサイトをまとめて公開した。
  - ・豊平川,札幌西方の山々,積丹,礼文島,支笏カルデラの5ヶ所のオンライン北海道ジオパーク(OHG)を公開した。

### <東北支部>

- ・震災により3月13日に予定していた支部総会,個人講演会・公開シンポジウムは中止となった。
- ・2011年度より,支部幹事県は山形大学(予定)。

### <関東支部>

1. 地質技術伝承講演会-技師長が語る地質工学余話シリーズ-の開催  
第1回(4月18日)赤色立体地図による新しい地質調査技術(講師 千葉達朗 [アジア航測])  
第2回(6月6日)共生型地下水利用に向けての「育水」の提唱(講師 中村裕昭 [地域環境研究会])  
会場:北とびあ 参加者:各60名
2. ジオパーク活動への協力  
ジオツアー「一味違った秩父札所巡り」  
【秩父札所をめぐる盆地と山地の境界を歩く】(2月6日)  
【秩父札所をめぐる荒川がつくった段丘を歩く】(3月6日)  
参加者:延べ225人(185人が秩父地元),案内者:小幡喜一(埼玉県立熊谷高校教諭)ほか  
主催:秩父まるごとジオパーク推進協議会,後援:日本地質学会関東支部運営:NPO法人 秩父まるごと博物館
3. シンポジウム(11月20日,21日)「関東盆地の地下地質構造と形成史」  
1日目:首都直下のプレート地殻構造と地震発生  
2日目:関東平野の形成と進化の新しい

見方

ポスター:関東平野下の約500kmにわたる反射測線プロファイル,一般講演

会場:日本大学文理学部3号館 参加者:延べ300名

共催:日本第四紀学会,後援:日本応用地質学会,日本物理探査学会,東京地学協会,東京大学地震研究所,日本大学文理学部

### 4. 支部活動

- ・支部総会(4月18日)  
法人化に伴い,支部幹事改選,活動報告,会計報告,活動計画,支部規約改正(定足数)
- ・支部感謝状委員会(7月),清水恵助氏に感謝授与
- ・支部規約改正  
幹事長職の設置,支部幹事数,顕彰制度の追加
- ・2011年水戸大会の準備  
富山大会にてアピール,見学会コース設定,見学会編集委員会,シンポジウム

### <中部支部>

1. 地質の日イベント(サイエンスフェスティバル,新潟大学,参加者340名)
2. 中部支部総会(7月24日,福井県立恐竜博物館,参加者27名,委任状62名)
3. シンポジウム「ジオパークと野外現場を生かした教育普及活動」(7月24日,福井県立恐竜博物館,参加者約30名)
4. 個人講演(口頭・ポスター)(7月24日,福井県立恐竜博物館,発表11件)
5. 地質見学会「福井県勝山市の恐竜化石発掘現場見学」(7月25日,参加者17名)

### <近畿支部>

1. 支部総会(11月20日,神戸大学)
2. シンポジウム「中央構造線の発生と改変:白亜紀から新第三紀にかけて」(11月20日,神戸大学)
3. 第27回地球科学講演会「大阪の温泉は本当に温泉か? -大阪平野の地下水を可視化する-」(5月9日,大阪市立自然史博物館,参加者163名)
4. 山陰海岸ジオパークフォーラム「みんなで知ろう!玄武洞やジオパークのこと」(5月29日,豊岡市じばさん但馬,参加者約200名)
5. 現地見学会「ジオサイトに行ってみよう!」(5月30日,神鍋高原,豊岡足跡化石発見サイト・玄武洞,参加者41名)
6. 公開シンポジウム「ジオ・シンポジア2010 in 北九州」(7月18日,北九州市立自然史・歴史博物館,西日本支部・四国支部との共催)
7. メタセコイア見学会(7月24日,第3回国際メタセコイアシンポジウム実行委員会・みなくち子どもの森自然館・

大阪市立自然史博物館との共催、参加者24名)

#### <四国支部>

- 2010年度支部体制 支部長：白井 朗，幹事：榊原正幸（事務局長），村田明広，西山賢一，寺林 優，近藤康生，奈良正和，佐野 栄
- 行事報告
  - 第10回日本地質学会四国支部総会・講演会  
日時：2010年12月11日（土）10：00～17：30  
場所：愛媛大学総合情報メディアセンター  
講演件数：口頭発表11件，ポスター発表15件
  - ポスト巡検『愛媛県西部大洲地域における御荷鉢緑色岩類・北部秩父帯の地質』  
開催日：2010年12月12日（日）  
案内者：榊原正幸，村田明広

#### <西日本支部>

- 2010年度の支部体制 支部長：宮本隆実，幹事：小山内康人・早坂康隆・山本啓司・松田博貴・酒井哲弥・福地龍郎・柚原雅樹・太田泰弘・加藤敬史・長岡信治・木戸道男・福田泰英・宮本知治（庶務），監事：中野伸彦
- 行事報告
  - 西日本支部他三支部合同例会「ジオ・シンポジウム2010 in 北九州」（兼：第159回西日本支部例会）  
日時：平成22年7月18日（日）  
場所：北九州市立自然史・歴史博物館
  - 第160回西日本支部例会・2010年度総会  
日時：平成23年2月19日（土）  
場所：広島大学  
講演件数：口頭講演29件，ポスター発表10件
  - 後援行事等『「地質の日」くまもと』企画，日時：平成22年5月9日（日）

#### 2. 執行理事会および理事会議決・承認事項

- 会長（＝代表理事），副会長，執行理事，監事の選出。  
会長（＝代表理事）：宮下純夫，副会長：久田健一郎，渡部芳夫。執行理事：石渡 明，井龍康文，小嶋 智，斎藤 眞，坂口有人，高木秀雄，内藤一樹，中井 均，西 弘嗣，平田大二，藤林紀枝，藤本光一郎，星 博幸，向山 栄，山口耕生。監事：青野道夫（会員），山本正司（非会員）
- 理事会議長・副議長の選出。  
議長：小山内康人，副議長：竹内 誠
- 各賞選考委員会委員の選出。任期2年。理事の互選（10名）：天野一男，安藤寿男，上砂正一，永広昌之，狩野彰宏（\*），榊原正幸，竹下 徹，松田博貴，

村田明広，山田泰広，役職指定委員（7名）：（前・現地質学雑誌編集長）久田健一郎，岩森 光，小嶋 智，（前・現アイランドアーク編集長）石渡 明，Wallis Simon，井龍康文，前川寛和。\*印：各賞選考委員会委員長（17名の委員の互選）。

#### 4) 執行理事会および委員会の構成。

- 執行理事の担当。  
常務：藤本，副常務：斎藤  
運営財政部会：部会長 向山執行理事，会計委員長は佐々木理事。  
広報部会：部会長 坂口執行理事（ジオルジュ，友の会立ち上げほか），内藤執行理事（Geo-Flash担当）  
学術研究部会：部会長 石渡執行理事
    - 行事委員長：星執行理事
    - 国内連携担当（専門部会・学術会議・連合）：西執行理事
    - 国際交流委員会担当：石渡執行理事（特任）
    - 地質基準委員会，地層名委員会
  - 編集出版部会：部会長 小嶋執行理事
    - 地質学雑誌編集委員会：小嶋執行理事，副委員長：山路理事
    - 企画部会：岩森会員
    - IAR編集委員会：井龍執行理事
    - 企画出版委員会：山口執行理事，藤林執行理事（リーフレット担当）
  - 社会貢献部会：部会長 藤林執行理事
    - JABEE委員会：天野理事
    - 技術者継続教育担当：藤林執行理事（西執行理事，向山執行理事，坂口執行理事がサポート）
    - 地学教育委員会：中井執行理事
    - 生涯教育委員会：平田執行理事，柴理事
    - 地学オリンピック担当：久田副会長
  - その他委員会の構成：担当理事，任務や体制
    - 支部長連絡会議：渡部副会長
    - 地質災害委員会：斎藤副常務理事
    - 名誉会員推薦委員会：久田副会長
    - 各賞選考委員会→3）を参照。委員の任期については，現行の選考委員会規則による1年ごとに半数改選を，理事等の任期に合わせて2年ごとの改選に変える。
    - 男女共同参画委員会：藤本常務理事
    - ジオパーク支援委員会：高木執行理事（特任）
    - 法務委員会：上砂理事
    - 選挙管理委員会
    - 地質学史アーカイブ委員会（再度登録するか問い合わせる）
- 研究委員会 各委員会に対し，継続するかどうか確認。
- アイランドアーク編集委員会規則の変更。
  - 法人化に伴う学会名称表記の修正を了承。地質学雑誌4月号（116巻4号）よ

り表紙等での学会名称表記を「一般社団法人 日本地質学会」に修正。編集規則（理事会承認事項）・保証書・著作権譲渡等同意書・転載申請書・著作物利用規定の文中の名称表記も同様に修正。

- 地質系統・年代の日本語表記については：地質学雑誌，講演要旨は，原則として，地質学会推奨の日本語訳年代表を使う。それ以外の地質学会の刊行物については，地質学会推奨の日本語訳年代表に従うとすることを確認し，小嶋編集委員長から拡大地層名委員会へ回答。
  - 「科学技術基本政策策定の基本方針（案）」に関するパブリックコメント：とくに基盤的経費の増額，ポストクおよび若手研究者の将来の安定化，地学教員の増強等を求めるコメントを提出。
  - 文部科学省，地方自治体教育委員会にたいし，高等学校理科地学教員採用に関する要望書の提出。
  - 地質学雑誌編集委員会規則の一部修正：太字アンダーラインの部分
    - 委員の委嘱について（任命・任期）
    - 5. 委員長，副委員長および委員は，正会員の中から部会長が推薦したものを **理事会が選出し**，会長が委嘱する。任期は2年とし，再任は妨げない。
    - 委員会の構成について
    - 4. 委員会は委員長，副委員長と **委員** から構成される。
  - 地質学雑誌図表説明の英文校閲と費用について：キャプションの英文の品質を確保するために，編集委員会が必要と認めた原稿のキャプションについて，英文校正の支援を行うことを了承（予算最大18万円/年の見込み）。
  - 「学術大会における見学旅行実施に関する申し合わせ事項」の追加修正：中止になった場合の費用負担，予定外の費用負担のルールを決める。
  - 法務局より役員変更申請および総会運営について，修正を求められ，指摘に従い修正。今後の対応について承認した。
  - 理事会規則の修正については：理事会規則第14条に2項～6項を追加（学会の事業運営推進のため理事会が必要とする委員会等の設置に関する事項），第13条の1項1号の改正（会計委員会を削除）を承認した。以下，14条，13条の修正条文：太字，アンダーライン部分
- #### 第5章 理事会の組織
- （理事会に置くその他の組織）
- 第14条 理事会は，恒常的な業務運営のためにつぎの組織をおく。それぞれの組織の構成，任務，運営の詳細は理事会が別途規定に定めるとともに，関連する執行理事会の各事業部会，業務委員会と連携して活動する。
- 支部長連絡会議
  - 地質災害委員会
  - 名誉会員推薦委員会

- (4) 各賞選考委員会  
 (5) 男女共同参画委員会  
 (6) ジオパーク支援委員会
- 2 前項のほか、理事会は、学会の事業運営推進のため理事会が必要としたもの、ならびに会員からの要請・提案による場合に、理事会決議により委員会を設置することができる。
- 3 前項の委員会の目的・任務、組織構成、運営の詳細は理事会が定める。
- 4 第2項により設置される委員会は、設置期間を定めないものと設置期限付きのもの2種とし、期限付き委員会の設置期間は最大2年とする。但し、理事会決議により、期限付き委員会の期限を延長することができる。
- 5 委員会は、理事会に対し、活動内容を報告するとともに、設置の趣旨に基づいて、必要な提案ならびに諮問・要請を受けた事項に対する適切な答申を行う。
- 6 理事会は、以下の場合に委員会を解散することができる。
- (1) 設置の目的・任務が達成されたとき  
 (2) 委員会設置期間が満了した場合  
 (3) 委員会が解散を希望し、理事会が妥当と認めた場合  
 (4) 委員会が本来の目的・任務を達成し得ないと理事会が認め、議決したとき
- (事業部会)  
 第13条 理事会は、執行理事会の下につきの事業部会をおく。
- (1) 運営財政部会 学会の事務および財政の運営を担当する。業務委員会として、**総務委員会をおく。**
- 15) 各種委員会の設置並びに規則の策定。
- (1) 地学オリンピック支援委員会の設置  
 (2) 業務委員会規則の策定と委員について  
 (3) その他の委員会設置・規則の策定と委員：災害地質委員会、ジオパーク支援委員会、法務委員会  
 (4) 研究委員会の設置・規則の策定と委員：地質環境の長期安定性委員会、南極地質研究委員会、地質学史アーカイブス委員会
- 16) 学会における受託事業の実施について：事業受託決定プロセス、受託可能事業の要件、事業受託手続きおよび連携事業委員会の設置と委員（委員長：渡部芳夫、委員：佐々木和彦 [理事会指名]、藤林紀枝 [社会貢献部会長]、上砂正一 [法務委員会委員長、委員長代行]）、規則について承認。
- 17) 日本地質学会の「友の会」設置について了承し、SNSでβテストをすることを承認。
- 18) 日本地質学会に対し申請のあった共催、後援、協賛等については、今後一定のルー

- ルに基づいて執行理事会が諾否を決定する。そのためのガイドライン作成に関して承認。
- 19) 2011年の年会（水戸大会）は、日本鉱物科学会との共催とする。共催については両学会の間で正式に文書を取り交わす。
- 20) 2012年以降の年会開催地について。  
 2012近畿・四国ブロック：大阪府立大学（開催日 9月15-17日 予定）  
 2013東北・北海道ブロック：東北大学  
 2014西日本支部、2015中部支部
- 21) 支部規則の確認を行った：基本的な条文についてはモデル案に沿うこと。追加条文、追加細則は認める。
- 22) 地震火山こどもサマースクール（地震学会・火山学会主催）への参画について：2011年度からは共催団体として委員および共催金（20万円）を分担拠出する。ジオパーク支援委員会の事業として同委員会が担当。
- 23) 産総研の「地質ニュース」が発行終了となった（2011.3）。今後商業誌として継続刊行の可能性についてのアンケートには、地質学会としては難しいと回答。
- 24) 地質の日事業（2011年度本部事業）について：神奈川県立生命の星・地球博物館と共催で実施。
- 25) 2011年度事業計画基本方針の承認。
- 26) 名誉会員推薦委員会の選出：委員長：久田健一郎副会長  
 ・階層別委員：大学；佐野弘好（九州大学）、官公庁；栗本史雄（産総研）、小中高；田中義洋（学芸大学附属高校）、会社；須藤 宏（応用地質株式会社）  
 ・職責委員：支部長 竹下 徹、竹谷陽二郎、伊藤谷生、原山 智、宮田隆夫、白井 朗、宮本隆実  
 ・理事会選出：天野一男理事
- 27) 各賞選考に関する件（次年度以降への対応ほか）  
 ・日本地質学会各賞選考規則第13項の運用に関して、各賞の候補者を理事会から推薦するとした場合、12月24日の推薦締め切り日までに理事会の承認手続きが間に合わないため、今年度は理事会から各賞候補者を推薦しない。これらの規則ならびに選考委員会規則については、今後検討することを承認。
- 28) 地質用語標準に関する地質学会の対応について：脇田理事からの提案を承認した。
- 29) 地質用語国際標準対応委員会の設置を承認。  
 委員長：井龍康文理事、委員：斉藤靖二 JIS委員、石渡 明国際特任理事、脇田浩二理事（IUGSのCGI日本委員）、西弘嗣学術研究部会国内連携担当、斎藤眞副常務理事、西岡芳晴会員（JIS委員会リエゾン）、以下、専門委員（各部会から派遣）：工藤 崇（岩石部会+火山部会）、尾崎正紀（層序部会+地域地質部会）、公文富士夫（第四紀地質部会）、

- 小原泰彦（海洋地質部会）、大藤 茂（構造地質部会）、環境地質部会（未選出）、保柳康一（堆積地質部会）、早川俊之（応用地質部会）
- 30) 見学旅行案内書のアーカイブ化および再出版について：古いものについては、著作権処理の同意を得る必要がある。ニュース誌に告知を出して対応する。他機関（過去には大学名などで刊行もある）の名前で出ているものは、相手先と協議する。既刊のリストアップは広報委員会で行う。
- 31) 国際賞、学会賞、小澤賞、棚山賞の選考について、選考検討委員会を設置し選考を諮問した。  
 ・指定委員…宮下純夫、鳥海光弘、石渡明（\*）、榎並正樹、小嶋 智、久田健一郎、井龍康文、前川寛和、Simon WALLIS、執行理事会の推薦者：木村学会員、磯崎行雄会員、富樫茂子会員 \*印：選考検討委員会委員長  
 ・Island Arc賞については、Island Arc編集委員会に選考を諮問した。
- 32) 今後リーフレット等の学会出版物には、奥付に一般向け価格を印刷することとし、会員には割引いて頒布することとした。
- 33) 水戸大会について、茨城大学への共催依頼を日本地質学会・日本鉱物科学会の両会長名で提出。茨城大学から承諾を得た。
- 34) 電子書籍出版を行うための概要や出版のフロー、フォーマット、販売方法などについて、検討案が示され、基本的に了承した。
- 35) 2011年度総会の開催日について：5月21日（土）15時～予定、会場は総評会館に決定。
- 36) 刊行済みのリーフレット4（地層処分）について：原稿の不備による重要な印刷ミスがあり、検討のうえ、重要性に鑑み刷りなおしを了解した。
- 37) 第2回惑星地球フォトコンテスト：応募総数426件、最優秀賞1件、優秀賞2件入賞15件を選考。
- 38) 技術者継続教育委員会の委員長の交代について：2011年5月、公文富士夫会員から吉田孝紀会員に交代。
- 39) 各種規則の改正、策定について承認された。  
 ・運営規則（改正）  
 ・各賞選考規則（改正）  
 ・男女共同参画委員会規則（策定）  
 ・地質用語国際標準対応委員会規則（策定）  
 ・連携事業委員会規則（改正）  
 ・電子出版物刊行に関する細則（策定）  
 ・倫理規定（任意団体からの引き継ぎのため、法人版としての策定日を追加）
- 40) 2010年度事業報告を承認した。【2号議案】
- 41) 2010年度決算案を承認した。
- 42) 次の10名の会員を50年会員として顕彰することとした。  
 今永 勇 井本伸広 岩松 暉 中村保

夫 名取博夫 野村 哲 古川博恭 真野勝友 渡辺 勇 渡辺 亨

43) 2011年度事業計画および2011年度予算案を承認した。【3号議案, 4号議案】

44) 名誉会員推薦委員会から提案された下記の5名の会員を総会に推薦することとした。【5号議案】

小島郁生会員 倉沢 一会員 松島信幸会員 猪郷久義会員 粉倉克幹会員

45) 各賞選考委員会より提案された下記の各賞受賞者を承認した。(推薦文は1号議案資料2 参照)

・日本地質学会賞(1件)

岩森 光(東京工業大学大学院理工学研究科)

対象研究テーマ: マントルにおける物質循環とマグマの発生・分化の地質学的研究

・日本地質学会国際賞(1件)

J. Casey Moore(米国カリフォルニア大学サンタクルズ校名誉教授)

対象研究テーマ: 付加体の陸上および海洋地質学的研究(On-shore and off-shore geological studies of accretionary complexes)

・日本地質学会小澤儀明賞(1件)

黒田潤一郎(海洋研究開発機構)

対象研究テーマ: 地球内部活動と海洋無酸素事象のリンクの解明

・日本地質学会柵山雅則賞(1件)

河野義生(High Pressure Collaborative Access Team [HPCAT])

対象研究テーマ: 岩石の弾性波速度測定による地球内部の構造解明研究

・日本地質学会 Island Arc 賞(1件)

授賞論文: Saffer, D. M., Underwood, M. B. and McKiernan, A. W., 2008. Evaluation of factors controlling smectite transformation and fluid production in subduction zones:

Application to the Nankai Trough. Island Arc, 17, 208-230.

・日本地質学会論文賞(3件)

Yamamoto, Y., Nidaira, M., Ohta, Y. and Ogawa, Y., 2009. Formation of chaotic rock units during primary accretion processes: Examples from the Miura\_Boso accretionary complex, central Japan. Island Arc, 18, 496-512.

Fujii, M., Hayasaka, Y. and Terada, K., 2008. SHRIMP zircon and EPMA monazite dating of granitic rocks from the Maizuru terrane, southwest Japan: Correlation with East Asian Paleozoic terranes and geological implications. Island Arc, 17, 322-341.

Endo, S., 2010. Pressure-temperature history of titanite-bearing eclogite from the Western Iratsu body, Sanbagawa Metamorphic Belt, Japan. Island Arc, 19, 313-335.

・日本地質学会小藤賞(1件)

Tazawa, J., Anso, J., Umeda, M. and Kurihara, T., 2010. Late Carboniferous brachiopod Plicatiferina from Nishiamada, Fukui Prefecture, central Japan, and its tectonic implications. The Journal of the Geological Society of Japan, 116, 51-54.

・日本地質学会研究奨励賞(3件)

常盤哲也(日本原子力研究開発機構)  
対象論文: Tokiwa, T., 2009. Timing of dextral oblique subduction along the eastern margin of the Asian continent in the Late Cretaceous: Evidence from the accretionary complex of the Shimanto Belt in

the Kii Peninsula, Southwest Japan. Island Arc, 18, 306-319.

辻 智大(株式会社四国総合研究所)

対象論文: 辻 智大・榊原正幸, 2009. 四国西部における北部秩父帯の大規模逆転構造. 地質学雑誌, 115, 1-16.

隅田祥光(明治大学黒曜石研究センター)

対象論文: 隅田祥光・早坂康隆, 2009. 夜久野オフィオライト朝来岩体における古生代海洋内島弧地殻の形成と進化過程. 地質学雑誌, 115, 266-287.

・日本地質学会功労賞(1件)

石井輝秋

功労業績: 日本近海の海洋底地質・岩石研究への貢献

・日本地質学会表彰(1件)

独立行政法人森林総合研究所森林農地整備センター・千葉県南房総市

表彰業績: 海底地すべり露頭の保全と社会教育的活動

46) 5月21日開催予定の総会議案の承認。

47) 独立行政法人原子力安全基盤機構から、柏崎掘削調査への技術評価活動についての一括請負契約の受け入れを承認した。

48) JNESの評価部会(仮称)の設置及び委員候補者の選出を承認。

地震地質: 佐藤比呂志会員(東大, 地震学会), 掘削技術: 品田正一会員(石油資源開発(株)), 構造地質: 伊藤谷生会員(帝京平成大), 応用地質: 小嶋 智会員(岐阜大), 年代層序: 井龍康文会員(名大, IODPも反映), 抗井調査: 関 陽児会員(産総研掘削調査Gも反映), 機器計測: 山路 敦会員(京大)

49) 「東日本大震災に関する地質学からの提言」を承認。